

市民活動団体と鎌倉市による協働事業
平成30年度実施分

事業評価

鎌倉市協働事業選考委員会

平成30年度に実施された協働事業の事業評価

《概要》

令和元年6月29日(土)午後1時から、鎌倉市役所本庁舎全員協議会室において「市民活動団体と鎌倉市による協働事業実施報告会」(平成30年度実施分)を開催し、協働した団体及び担当課から各事業の結果報告が行われました。

その報告を受け、同日午後3時から「鎌倉市協働事業選考委員会」を開催し、それぞれの事業評価を行いました。

委員会における事業評価の内容は以下のとおりです。

なお、評価を行った委員会の委員は次のとおりです。

《鎌倉市協働事業選考委員会 委員》

委員長	志村 直愛	東北芸術工科大学 教授
副委員長	土屋 真美子	認定特定非営利活動法人まちぼっと 理事
委員	石川 勝己	特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営 会議 会員
委員	山口 重久	公募市民
委員	齋藤 和徳	鎌倉市市民生活部 部長

《実施事業》

1. 自治・町内会活動支援のためのハンドブック作成事業
… 2 P
2. 発達支援・特別支援教育に関する情報紙の制作
… 3 P

● 自治・町内会活動支援のためのハンドブック作成事業

★評価の高かった点

- ・ 成果物の完成度が高く、研究として評価できる質の高い取組みになっていたこと。
- ・ レビューとフィードバックを行っていたこと。
- ・ 行政が作成するよりやわらかく、わかりやすい親しみのもてる良い成果物ができていたこと。
- ・ 市民活動団体、行政担当課の目標の共有化が首尾よく達成できていたこと。
- ・ ヒアリング等の情報収集がすぐれており、説得力があった。
- ・ 丁寧に地域の課題を把握したことやプロセスも丁寧だった。
- ・ 地域のネットワーク形成や行政の横のつながりや情報共有ができていたこと。

★評価の低かった点

- ・ 予算書と決算書において、総額、勘定科目及び金額に多くの変更があったこと。
- ・ 事業の進め方は協働事業というより受託的な面もあったこと。
- ・ 行政側の担当者の引継ぎがうまくいっていなかったこと。
- ・ データのやりとりが上手くいかなかったこと。

★今後に向けての課題点

- ・ 今後のハンドブックのブラッシュアップと周知活動をすること。
- ・ ハンドブックを用いた自治会の役員向けの研修を続けるなど、ハンドブックを多面的に活用し、市民の共有財産とすること。
- ・ いろいろな方からのアドバイスを生かして2号、3号を発行すると良い。
- ・ 行政側の意志決定過程（決裁過程）について伝えること。
- ・ ヒアリング結果等をまとめて、それをホームページ等で公開すると良い。
- ・ 協働事業のうまくいかなかった点をまとめると良い。
- ・ 若い人の入会の手引きとなるダイジェスト版を作ると良い。
- ・ アウトプットが素晴らしかったので形成した繋がりを発展していくと良い

★その他

- ・ 市民活動団体の中間支援組織化と今後の活性化。
- ・ もっと掲載したい内容があったと思うのでその部分をフォローしていくと良い。
- ・ 団体は他自治会・町内会をつなぐパイプ役になった。

《総体的な評価》

アンケートやヒアリングによって地域課題の情報を抽出したことや行政が作成するよりもはるかに柔らかく、わかりやすく仕上げることでできたため、非常に完成度の高い成果物ができた。

また、市民活動団体、行政担当課の目標の共有化ができており、非常に良い関係で協働が行われていた。

一方で、行政担当課の担当者の変更に伴う引継ぎがうまくいかず、作業の進行に支障がでたことや情報交換に時間を要したことなどがあり、市民活動団体に負担がかかることが大きかったことは課題である。

● 発達支援・特別支援教育に関する情報紙の制作事業

★評価の高かった点

- ・ 広く情報発信することで当事者以外の人にもつながり、裾野が広がったこと。
- ・ デリケートな問題を団体の知識を生かして行政がバックアップできたのは非常に協働事業らしかったこと。
- ・ アンケートで出た知見も素晴らしかったこと。
- ・ イラストが大変柔らかく印象深い成果物になったこと。
- ・ 幼児から中学生まですべての子育て家庭に配布でき、幅広く情報を提供できたこと。
- ・ 相談窓口を具体的に紹介したこと。
- ・ しっかり調査し、表現の工夫を重ね、市民が手に取りやすい素晴らしい成果品を残せたこと。
- ・ 社会的課題に協働で取り組むことができたこと。
- ・ 専門学者の助力を確保できたこと。
- ・ 3つの行政担当課と協働したこと。

★評価の低かった点

- ・ 1号に「無断転用禁止」の注意書きがいくつかあり、堅いイメージがあったこと。

★今後に向けての課題点

- ・ 1号、2号だけに終わらず継続していくこと。
- ・ アンケートで出た知見を生かすこと。
- ・ 行政側の意思決定過程をあらかじめ伝えておく必要がある。
- ・ どのように継続していくか、団体のリーダーシップに期待したい。

★その他

- ・ 行政担当課と団体の本音を言い合う機会が必要かもしれない。

《総体的な評価》

デリケートな問題を団体の知識を生かして行政3課がバックアップしたことで幼児から中学生まで全ての子育て家庭に配布できたため、非常に協働事業らしい事業だった。

また、専門学者の助力を確保したことや内容を柔らかくしたことによって印象深い成果物ができた。

一方で、1号に記載されている「無断転用禁止」の表記がコピー可能な2号にも影響があったことは課題である。